

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワクワクひろば		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 12 月 16 日		～ 令和 7 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 月 13 日		～ 令和 7 年 2 月 7 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 2 月 18 日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団(1日定員10名)での療育で、長めのサービス提供時間(延長支援含め6時間)を設定していること。	・みんなでお片付けをしたり、「はじめの会」で着席して話を聞いたり等、集団を意識した活動を取り入れている。 ・着がえ、身支度、排泄面等、自分でやろうとする意識を褒めながら育てている。	年々、利用する児も集団の雰囲気も変化していくので、職員間で子どもの特性や、どのような対応や工夫が有効だったのかを日々密に共有していく。
2	保護者との連携や情報共有、研修の機会の提供などに力を入れていること。	・利用終了後の保護者への引き継ぎに加え、連絡帳を用いて様子を記録し、保護者には家庭の様子等を記入してもらい、情報共有している。 ・親子行事・保護者会・ペアレントトレーニングを開催している。	保護者会や面談(モニタリング等)の際に、利用児の活動の様子がより分かるもの(写真や動画等)も提示できるよう、事前の準備を図る。
3	職員のさまざまな専門性を複合した活動プログラムを提供していること。	保育士・児童指導員・作業療法士・公認心理師など、さまざまな資格を有した職員が、その専門性を活かした支援の提供に努めている。また、曜日ごとに主となる職員(全体の進行役)を分け、活動が固定化されないようにしている。	職員の支援者としての知識・技能を高める取り組みを行っていく(外部の研修会の参加、他施設への見学、内部研修など)。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団(1日定員10名)の療育であるからこそ、個別の空間の確保が難しかったり、部屋のスペースの使い方に工夫を要したりすることがある。	部屋を分けて、使用できるスペースが限られる時間帯があり、利用児の遊び方・過ごし方によっては部屋の使用方法が難しいと感じることがある。	・利用児の過ごし方や遊び方の特徴を把握していく(特に、新規の利用児)。 ・室内用のテント遊具や、静かに遊ぶおもちゃなど、必要な道具をそろえる。
2	保護者会や親子行事は定期的で開催しているが、きょうだい向けのイベントは開催していない。	・平日はサービス提供時間(計6時間)を充実させること、また、土曜日は放課後等デイサービスを開所しており、その他のイベントを開催する準備や時間が限られる。	・利用中の保護者の方々に、どれだけきょうだい向けのイベントのニーズがあるのかを把握する。 ・第5週の土曜日は放課後等デイサービスを開所していないため、そういった日を活用できないか検討していく。
3	事業所として主催する、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流の機会や、その他、地域で他の子どもと活動する機会はない。	・現在利用している子どもたちは、全員がどこかの保育所や幼稚園、認定こども園を併用しているため、改めて交流の機会を想定していない。	・保育所や幼稚園、認定こども園への併用を、利用している方々に引き続き推奨していく。また、園に訪問する機会を積極的に設け、連携を密に図っていく。